

2025. 5. 18開催

大阪狭山市議会 議会報告会の報告

目 次

■開催の状況	P 2
■議会報告会の様子	
◎ 『第1部 議会の報告』	P 3
▼3月定例会議会の報告	P 3
◎ 『第2部 市民との意見交換会』	P 5
▽Aグループ	P 5
▽Bグループ	P 8
■市議会での市の関連答弁（抜粋）	
▽代表質問	P 10
▽個人質問	P 11

開催の状況

- 開催日時 令和7年5月18日（日） 午後2時から午後4時まで
- 開催場所 市役所3階 第1・第2会議室
- 出席議員 全議員14名（50音順）

Aグループ（総務文教常任委員）			
池永 裕樹	北 好雄	鳥山 健	中井 勝也
中野 学	深江 容子	山本 尚生	

Bグループ（建設厚生常任委員）			
北村 栄司	久山 佳世子	小芝 英俊	西野 滋胤
花田 全史	松井 康祐	山本 あさみ	

- 一般参加 14名

◎『第1部 議会の報告』

第1部では、令和7年度（2025年度）会計別予算の状況や条例の審査状況など、3月定例会議会の内容について報告しました。

▼3月定例会議会の報告

1. 令和7年度（2025年度）一般会計予算について

令和7年度一般会計の予算総額は245億3,611万1千円で、昨年度より14億7,062万5千円、6.4%の増加となっています。

予算決算常任委員会において一般会計予算を審査したところ、「学校給食費の完全無償化や带状疱疹ワクチン接種の助成など様々な事業の実施は評価できるが、上下水道料金福祉減免の見直しに伴う激変緩和策であるさやりんポイント付与額の引下げなど冷たい対応と言える」、「様々な苦心、工夫を重ねた予算編成ではあるが、経済的な効率を優先して、幼稚園・こども園の統合を強引に進めるなど、市民の要望を軽んじる市政運営が目立つ」などの反対の意見や、「行財政運営戦略プラン2025の策定が進められ、健全な財政運営に努められている」、「今熊地区周辺エリアにおける複合施設等の整備や近畿大学病院等跡地活用などのまちのリメイクの推進など、未来への投資や様々な住民ニーズに対応して予算編成されたものである」などの賛成の意見があり、賛否両論の討論が行われた後、採決の結果賛成多数で原案のとおり可決されました。

2. 令和7年度（2025年度）の特別会計等予算について

令和7年度国民健康保険特別会計については、60億1,346万6千円を計上しており、前年度と比較して5億6,546万5千円の減額となっています。

介護保険特別会計予算については、63億3,952万3千円を計上しており、前年度と比較して1億9,121万2千円の増額となっています。

これら特別会計等の予算の内容について、賛否の意見と合わせて、審査結果についても報告しました。

3. 条例等の審査状況について

委員会提出議案2件について説明し、賛否の意見と合わせて、審査結果についても報告しました。また、議案として上程された大阪狭山市未来に輝く教育のまち条例については、付託された総務文教常任委員会での審査内容を報告しました。

◎『第2部 市民との意見交換会』

第2部では、「健幸で、にぎわうまちづくり～今、大阪狭山市に必要なものは？～」をテーマとして、2グループに分かれ、自由に意見を述べていただきました。

前回に引き続き、グループワーク形式で実施させていただいたことにより、ご参加いただいた市民の皆様から数多くのご意見をお聴きすることができました。皆様からいただいたご意見やご要望などにつきましては、必要なものは本市の行政側に対してお伝えし、各議員の議会質問などの参考とさせていただきます。さらに、所管する各委員会においても、付託案件の審査・審議や所管事務調査などに積極的に活用し、本市議会の活動の一層の充実につなげます。

▼各グループにおける意見交換の状況

Aグループ

◎今熊地区周辺エリアの複合施設整備

- 複合施設整備や幼稚園・こども園の再編・統合が、大阪狭山市の新しい魅力になり、新しい人口流入のきっかけとなるのか。また、この整備等は長期で行われるものであり、計画通りに進まなかった場合は誰が責任を持つのか。若い人たちに負担がかからないように、議員も責任をもって取り組んでほしい。
- 再開発が今熊地区でいいのか。ここが狭山の中心になる場所なのか疑問である。
- 今後の少子化を見据えると、駅周辺は栄えるが、駅から離れると繁栄しないのではないかと考えている。
- 若年層からも公共施設に対する様々な意見や要望があると思う。新たな施設の整備にあたっては、これからの世代の方々にとって価値あるものとなるよう、丁寧に考え進めていただきたい。議員は、市民の声をしっかり反映させていってほしい。
- 全国的に公的施設の床面積縮小が進められる中、本市においても図書館のスペース縮小が懸念されている。特に「読書スペース」は確保していただきたい。
- 大阪狭山市の図書館は本が少ないと感じている。

<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流の場を充実できればいい。
<ul style="list-style-type: none"> ・他市には、関心を集める魅力的な図書館が整備されている。公共施設の再配置に伴い図書館の縮小を進めるのではなく、快適な空間を創出し、市民の憩いの場となることを望んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・複合施設整備に期待している。「いいもの」を作ってほしい。
<h3>◎子どものこと</h3>
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・こども園の再編・統合で、新こども園が西山台の1箇所に統合すると聞く。園が遠いと送迎が不便で保護者は困る。居住地に大阪狭山市を選択する若い人が減るのではないか。急な病気で送迎が必要になった場合の想定など、どのように考えているのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・東野幼稚園周辺で朝の見守り活動をしているが、通勤などの車が坂道を飛ばしてくる。子どもが跳ねられないか心配している。
<ul style="list-style-type: none"> ・大阪狭山市は待機児童がいないと聞いて転入してきたが、2歳は待機児童がある。対策してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の登校時間帯の通行規制をしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・事故が起こってからでは遅い。被害を受けるのは子どもたちである。
<ul style="list-style-type: none"> ・北小学校通学路で7-9規制をしているがルールを守ってもらえていない。地域で協力し、自治会や警察とも連携しながら進めていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・かつて自治会や地域が協力して団結してきたが、現在自治会の力が弱まってきている。子どもや地域を守るために、協力してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・小学6年生を対象としたアンケート調査において、給食の質や量の充実、公園でのボール遊びの許可など、具体的かつ切実な要望が寄せられている。この声を一つずつ実現させてほしい。
<h3>◎狭山ニュータウン</h3>
<ul style="list-style-type: none"> ・府営住宅（狭山住宅）の建替えのため引っ越しすることになるが、自治会に入らず共益費も払っていない人たちと平等に扱うと言われている。不公平であり、配慮してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・マツゲンが撤退し、買い物に困っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売をしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売は高齢化が進む中で、有効な手段である。

・スーパーなど商業施設への送迎サービスを実施しているところもある。高齢者の買い物支援の一つとして検討してはどうか。

・過去に府営住宅における移動販売の導入が検討されたものの、住民によるボランティア支援を前提とした運営体制が求められたことから、人材確保の負担が大きく、最終的に実施には至らなかった。

◎その他

・一部の地域だけでなく、市内どこの地域も活性化するまちづくりをしなければいけない。

・コミュニティバスやおでかけサポートはあるが、交通手段がない人たちへの支援をもっと充実させてほしい。

・様々な取組の中で、議員とのコミュニケーションを十分とりながら、物事を考えていくことが自身の学びにもなり、また大切なことだと感じている。

Bグループ

◎今熊地区周辺エリアの複合施設整備

- 笑顔があふれるような場の創出が必要である。商業施設内においても、憩いや交流の場として機能する空間を整備してほしい。
- 今熊地区における公共施設再配置の基本構想を見て、市民の生活利便性の確保が大前提であることは理解しているが、今後さらに進行する高齢化を見据えると、社会福祉協議会等の福祉機能や公民館の位置づけ・整備計画について不安に感じている。
- たとえ3階建てにしてもスペースが足りないのではないかと不安である。
- 公共施設の再配置にあたっては、国の補助金を活用するうえで、現在の延床面積を削減することが要件となっており、施設規模の縮小が求められている。
- 複合施設の整備にあたり、老人福祉センターのお風呂はなくさないでほしいと強い声がある。
- 企業選定後に、ワークショップの開催を。
- 民間企業のため、市民の声や議員の声を届けることは難しい。

◎近大跡地

- 近大跡地に公園の整備や遊具の設置を含む具体的な計画はあるのか。
- 駐車場の近くに憩いの場をつくってほしい。

◎地域の安全

- 大阪狭山市駅東側の歩道が途中で途切れている箇所があり、朝通学する子どもたちにとって危険である。
- 大阪狭山市駅に向かう一方通行道路は幅が狭く、歩行者と接触する恐れがあり、安全に不安がある。
- 子どもの見守り活動の人材確保が困難である。
- 子どもの見守り活動の人材確保のため、地区会で回覧を回して募集を行ったことがある。

子どもの見守り活動は、当事者（保護者）に声をかけるのも一つの方法である。

- 自治会役員の協力を得て子どもの見守り活動を行っているが、自治会を退会する人も多く、役員の負担になっており、今後の活動継続に危機感を感じている。

◎金剛駅周辺のにぎわい

- 金剛駅周辺の整備・開発が進んでいない。道路幅も十分とは言えず、市としては関係者と粘り強く交渉を重ねているのか。
- 金剛駅周辺の店舗の閉店が続いている。金剛駅西側のにぎわいづくりに取り組んでいかなければならない。

◎福祉

- 大阪狭山市社会福祉協議会の高齢者移動支援事業（さやりんおでかけサポート）については、ニーズの高まりに伴い、車両の増強及び運転ボランティアの増員が必要に思う。

◎万博

- 令和7年度主要事業に万博関連経費が計上されているが、内容について知りたい。（意見交換会の場で説明済み）

◎その他

- 市職員には、誠実さ、親切さが必要であり、市民が意見を言える受け皿になってほしい。市民の声を細かいところまで聴いてほしい。
- 山本北地区では昼夜を問わない産業廃棄物業者による騒音に悩まされているが、行政に相談しても解決しない。地域をよくするために尽力しており、行政にも協力を求めたい。

●令和7年招集6月定例月議会 一般質問（代表質問）

議員の質問

公共施設再編の「縮」「充」を問う

公共施設の老朽化による更新と今後の人口減少を見据えた「今熊地区周辺エリア複合施設整備事業基本構想」が令和7年3月に策定された。将来必要となる更新コストを試算し、2055年度の数値目標を「公共施設総延べ床面積の約10%縮減」としている。

しかし、策定された基本構想に、今熊地区の現行6施設（合計延べ床面積8,664㎡）に、他地区の4施設（合計延べ床面積2,102㎡）を加えた延べ床面積10,766㎡を6,500㎡程度、4,266㎡減（約40%減）の想定が示されている。

例えば、市立図書館は、現行1,467㎡が1,015㎡に、452㎡減（31%減）とされ、陶邑窯跡群という本市の歴史にもつながる陶芸窯やプラネタリウムなどの体験型施設が消去されている。

現時点での想定であり確定ではなく、配置についても今後検討を行い、市民の意見を聞きながら決定することであるが、公共施設等適正管理推進事業債（公適債）の適用についての意識を強く感じた。

総面積の圧縮を図る一方、機能の充実とサービスの向上を図る「縮充（しゅくじゅう）」をめざすと市民に説明されてきたが、その「充」について見解を伺う。

市の答弁

「縮充」という言葉の意味は、公共施設及び関連する機能を集約・複合化することにより、公共施設総面積の圧縮を図りながらも、機能の充実やサービスの向上をめざすことにより地域の活性化や魅力向上を図ることである。

新たな複合施設の建設というハード面だけではなく、どのような運営をすれば長きにわたり市民から愛され続け、利用し続けてもらえるのかというソフト面の「充」も非常に重要となる。既存の定めたルールに沿って利用いただくのではな

く、必要に応じて運営内容を変化・進化させ、その時代に合わせた運営ができる仕組みを市民とともに創り上げていけるよう、真に市民が求める内容に向けた取組を進めていきたいと考えている。

●令和7年招集6月定例会議会 一般質問（個人質問）

議員の質問

魅力あるまちづくりについて

本市は、1987年10月1日に市制施行され、2年後の2027年には40周年を迎える。高度経済成長とともに、狭山ニュータウン開発が行われ、人口が増加してきた。しかし、少子高齢化は本市においても課題の一つであり、住民や訪れる方への魅力発信も必要である。そこで、2点について本市の見解を伺う。

- (1) 駅を中心としたまちづくりについて。
- (2) 海外や市外からの観光客誘致について。

市の答弁

(1) 本市内にある南海高野線の狭山駅、大阪狭山市駅及び金剛駅の3駅は、本年4月に公表した『大阪狭山市立地適正化計画』において、金剛駅周辺を本市の中心拠点に、狭山駅周辺と大阪狭山市駅周辺を本市の地域生活拠点としている。

また、『大阪のまちづくりグランドデザイン』において、「成長・発展をけん引する拠点エリアを形成」として、「大阪高野都市軸郊外拠点エリア」に金剛駅周辺エリアが位置づけられた。このことから、本市と大阪府、鉄道事業者等が連携し、今後の金剛駅周辺エリアにおけるまちづくりに対する機運醸成や、あらゆる利用者ニーズを把握し、まちづくりの可能性を探るため、本年5月に社会実験を実施した。今後の金剛駅周辺エリアのまちづくりについては、この社会実験の結果も踏まえた上で、近隣市や鉄道事業者等と連携し、本市だけではなく大阪南部の広域拠点としてにぎわいのある空間づくりを検討する。

(2) 大阪観光局は、2024年に大阪府を訪れた訪日外国人数の推計を1,463万9千人と発表しており、過去最高を更新している。

また、現在開催されている大阪・関西万博においては、会期中の想定来場者数が約2,820万人と想定されており、うち海外から約350万人の外国人観光客が来場すると予想されている。本市は、JRグループ6社・観光事業者などが協力して地域の新たな魅力を発信し誘客する全国規模の大型観光キャンペーンに参加し、大阪・関西万博等を通じて本市の魅力を国内外にPRする取組を行っている。加えて、春の桜や伝統文化など、観光客にとって、SNSで共有できる魅力的な写真や動画を配信し、持続可能な観光客誘致に努めている。

大阪南部にある百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産や、本市のシンボルで国の史跡に指定されている狭山池や狭山池博物館などを活用した広域的な連携による観光の促進や、鉄道事業者等とのPR活動も含めた公民連携による協力体制の構築など、本市の魅力発信の強化に努めていく。

議員の質問

近畿大学病院移転に伴う今後の計画

近畿大学病院が、本年11月に堺市に移転する。移転後の跡地活用と医療施設は市民にとって大きな関心事項である。そこで、次の3点について見解を伺う。

- (1) 跡地活用の全容について。
- (2) 近畿大学病院の移転計画及び解体計画について。
- (3) 医療法人せいわ会の医療施設の建設計画について。

市の答弁

近畿大学病院等の移転に伴う跡地活用の全容については、近畿大学が、昨年12月10日付けで、大和ハウス工業株式会社を開発事業者候補とした旨を公表し、現在、本市の都市計画提案制度に基づき土地利用案などについて、本市と近畿大学、大和ハウス工業株式会社の3者で協議を進めている。

開発事業者候補である大和ハウス工業株式会社から土地利用案が提案され、校舎等建物がある北側の区域を商業系区画に、駐車場がある西側の区域を産業系区画に、南側のグラウンド部分を病院用区画に、緑地部分は存知させることを想定されており、本市広報5月号に概要を掲載している。

今後、この土地利用案を基本に、都市計画提案制度に基づき、開発者から関係する市民への説明や、本市との協議、都市計画法にもとづく縦覧等様々な手続きを行うことにより、土地利用の前提となる用途地域や都市計画道路のルートなど、都市計画について必要な変更を行うこととなる。

その後、都市計画の変更内容を踏まえて、開発者が土地利用案について必要に応じて時点修正などを加えるなどにより、具体的な土地利用が検討され、開発許可の手続きを経て移転跡地が整備される。

建物の解体については、近畿大学から、建物のアスベスト調査や土壌調査の調査結果を踏まえ工事着手から3年半から4年程度をかけて、各種法令に従い丁寧に実施される予定と聞いている。

また、医療法人せいわ会の医療施設建設については、建設予定位置のボーリング調査や測量調査を終え、開発許可の手続きに必要な図書が作成されている段階であり、近畿大学病院移転後の令和8年1月に建設工事に着手し令和9年4月に開院される予定と聞いている。

これら移転跡地に係る工事については、工事内容を市民に丁寧に説明するよう近畿大学及び開発事業者に求め、必要な情報を適宜ホームページに掲載するなど、わかりやすい情報提供に努める。

議員の質問

本市の保育施設及び放課後児童会の待機児童と今後の展望について

現在喫緊の課題として、保育施設や放課後児童会において待機児童が出ている。保育施設・放課後児童会における現在の待機児童の現状及びその具体的な対策、今後の展望について伺う。

市の答弁

本市では、住宅開発に伴う子育て世帯の転入や女性の社会進出による共働き世帯の増加などに伴い、就学前・就学後に関わらず保育ニーズは増加傾向が続いている。これまでも民間保育所等の新設をはじめ、市立幼稚園の認定こども園化等による定員の拡大、また、民設民営の放課後児童会の創設、運営補助など、受け

皿の確保に努めてきた。

しかし、令和7年4月時点において、保育所等の保育施設で38人、放課後児童会では45人の待機児童が発生しており、今後も保育及び放課後児童会ともに利用希望者数は増加していくものと予想している。

今後、池尻保育園の幼保連携型認定こども園への移行に合わせた建替えにより保育定員を拡大するほか、既存施設の利用定員の見直しや新たな民間施設の募集なども含めて必要な対策を講じていくことで、提供体制の確保に努める。

また、放課後児童会については、特に東小学校で、令和10年度末で廃園となる東幼稚園施設の活用により抜本的な対策を講じていくこととしており、その他の小学校においても利用希望者数の推移を踏まえ必要な対策を検討・実施する。

今後も、本市の人口動態と合わせて、社会情勢や市民ニーズの推移を注視しながら、待機児童を出さない取組を進めていく。

議員の質問

市民に愛され利用される「今熊地区周辺エリア複合施設」にするために

複合施設整備事業を進めるにあたり、ワークショップや市民アンケートの実施、パブリックコメントの募集など市民の声を聞いてきた。その意見の中で、複合施設に対し期待の声を聴く一方で、図書館や公民館、保健センターを利用されている方からは、工事に伴う仮移転中もこれまでと同じように活動、利用できるのか心配する声も伺っている。

不安から期待へ、市民に愛され利用される複合施設にするために、今後市民とどのように対話する機会を設けていくのかが肝要と考える。本市の見解と展望を伺う。

市の答弁

今熊地区周辺エリア複合施設整備事業基本構想において、複合化による事務スペースの一体化や共用部の集約、稼働率の低い諸室の整理などにより、新たな複合施設の延べ床面積を6,500㎡程度とした。現在、基本構想をもとに整備事業者を公募しており、令和7年12月の契約締結を目標に手続きを進めている。

今後、事業受託事業者が決定した後、具体的な施設規模や施設配置を示しながら、市民と直接対話できるような意見交換の場として、事業進捗に応じたワークショップやシンポジウム等を開催していく予定である。

また、施設整備というハード面の視点だけではなく、市民参画を見据えた検討体制の構築や、施設運営に対する民間事業者等へのサウンディングを実施していくなど、ソフト面の視点からも並行して検討を進めていきたいと考えている。

今後も、適切な時期に適切な情報の発信や、市民参画による事業推進を実施し、不安ではなく期待を持っていただけるよう努める。

議員の質問

金剛駅周辺「駅前広場の活用実験」及び「アンケート調査」について

本年5月9日から30日にかけて、社会実験として、「金剛駅前オープンテラス&マルシェ」が実施された。金剛駅周辺エリアのポテンシャルや利用者ニーズを把握するための「駅前広場の活用実験」及び「アンケート調査」を目的とし、自由に利用できるベンチ、テーブル、パラソルなどが設置され、キッチンカーやマルシェ、まちづくりブースなど、暫定的ではあるが、にぎわい空間の創出が実施された。その結果について報告と見解を伺う。

市の答弁

今回の社会実験は、金剛駅周辺エリアのまちづくりに対する機運醸成や当エリアにおける、あらゆる利用者ニーズを把握し、今後のまちづくりの可能性を探るために実施したものである。

具体的な内容として、「滞留空間づくりの社会実験」として、駅前の空間に仮設の人工芝やベンチ、パラソル等を暫定的に設置し、これらの滞留空間がどのように利用されているかなど、定点カメラや人流分析により把握をするとともに、アンケート等による利用者ニーズに関する調査を実施した。

また、「にぎわい空間づくりの社会実験」として、約1箇月間の実施期間のうち4日間はキッチンカーやマルシェ、万博PRなどの行政ブースの出店などにより、にぎわい空間の創出を行った。

現在、人流分析やアンケート調査の集計作業を行っているところであるが、速報値として、5月9日（金）から30日（金）の22日間で、529件のアンケートの回答があり、「商業などの様々な施設の充実」、「憩うことのできる空間やオープンスペースの確保」、「にぎわいの創出」、「富田林市や南海電鉄との連携が必要」など、たくさんのご意見をいただいた。調査結果の内容については、集計及び分析作業を行い公表する予定をしている。